情意面における評価の研究Ⅳ その7

— 水溶液の性質（6年）を通して —

川崎理科教育研究サークル

栗田 一良^a,

○黒澤 修治^b,

國武 信行^c

KURITA kazuyosi^a,

KUROSAWA syuuzi^b,

KUNITAKE nobuyuki^c

聖セシリア女子短期大学^a, 川崎市立東高津小学校^b, 川崎市立久本小学校^c

情意面の評価 関心意欲態度 認知面との相関 水溶液の性質（6年）

はじめに

情意面の評価は、教師の主観的な判断に依存することが大きい。

そこで、情意面の評価をできるだけ合理的・客観的な評価となるように「水溶液の性質」（6年）を通して研究を行うことにした。

設定する評価項目を増やすと正確さは増していくが、教師は評価することだけで追われ、教師は一時間ずっとチェックしていることになる。

そのため、評価項目の作成の際、評価しようとするものが「興味・関心」、「意欲」、「態度」いずれを評価対象にするかをはっきりさせ、できるだけ少ない項目数で効果を上げる評価項目を設定する必要がある。

また、効果的な評価をするためには、単元のどの時間にどの項目の評価をするかを、事前の教材研究で十分検討する必要がある。

以上のようなことを留意しながら評価項目を作成した。

1. 情意面の評価マトリックスと評価方法

「興味・関心」、「意欲」、「態度」の3つに情意面の評価内容を分け、児童の表出した行動のみを評価項目とした。また、授業中だけでなく、授業後の情意面の表出行動も捉えられる範囲で評価した。

評価は、概ね満足できるものを○、満足できなかったものを△とした。普通もしくは、行動が分析できなかったものや曖昧なものは無印とした。

(1) 興味・関心

興味・関心は学習のとりかかりとなるものである。疑問や問題を述べていたか、結果を予想したか、実験の準備をしたかなどの観点で評価した。評価方法は、発言、ワークシート、自己申告などで行い、それらの内容は問わないようにした。

(2) 意欲

意欲は問題を最後まで解決していこうとする心構えである。「たくさんの水溶液をリトマス紙で調べたか」や「塩酸に溶けた金属がどうなったのか調べる方法を考えたか」などのように実験方法を考えたり、実際に器具を使って調べているかなどの観点で評価した。評価方法は、実験方法を考える活動は主にワークシートでチェックし、実験の場面では行動観察で行った。

(3) 態度

態度は学習の成果であり、身近な生活の中で学習に活かしていこうとする態度である。技能面や思考面とも重なりやすいところでもある。

ここでは、表出行動として傾向性が見られれば評価した。危険な薬品を使うため安全に留意しているかや前時までの学習を活かしながら学習を進めているかなどを観点に評価した。評価方法は、行動観察やワークシートのまとめ方のチェックで行った。

2. 研究の結果と考察

具体的な評価項目と評価方法を作成することにより、漠然としていた情意面を評価は可能である。「家庭にある水溶液の性質を探す」などにおける「自己申告」の評価方法は、授業後も興味関心が持続しているかどうか手短かに評価できることがわかった。

情意面の評価をすると、実態に応じた導入の工夫が大切であることがわかった。導入時の事象提示や教師の投げ掛けによって興味・関心の高まりに違いが見られる。

また、情意面を毎時間評価していくと、それぞれの児童の学習の関わり方を細かく観察できた。今回の調査を基に、個に応じた支援が今まで以上に可能になると思われる。